

これからの新たな学習指導システムの構築
～アナログとデジタルの学習指導の融合を目指して～

校長 谷口源太郎

令和4年度がスタートして2か月が経ちました。今回は、学校が昨年度から取り組んでいる「教育の情報化」「EdTech（エドテック）」の今後のことについてお伝えしたいと思います。図1～6に沿って話を進めたいと思います。

図1は、今年度になってから本校の取組をマスコミが報道したものをまとめたものです。

4月6日（水）MBCテレビが入学式でのYouTube限定配信が報道される。

5月2日（月）県PTA新聞（小学校版）に本校のEdTechの取組が掲載される。

5月6日（金）KKBテレビ市政広報番組「かごしま元気BOX」で本校が取り組むハイブリッド型オンライン授業が放送される。

5月末には小学館「みんなの教育技術」WEB版に本校のオンライン授業の導入をどのように進めてきたかについて3回連載される。

図2は、これからの学習指導について表したものです。これまでもきめ細やかな指導を行ってきましたが、これからは35人学級の段階的な導入、高学年教科担任制が進んでいき、タブレット端末の活用、デジタルドリル導入などの新たな取組が加わって「個別最適な学び」が実現できるよう進めていきます。これまでのアナログによる学習指導にデジタル化された学習指導が加わっていくこととなります。

図3は、学校が子どもたち一人一人に「確かな学力」を育成するためにアナログとデジタルを組み合わせた学習指導を授業、補充指導、家庭学習で行いながら取り組むことを表したものです。この3本の柱でアナログとデジタルの学習指導の融合を進めていきます。

図4は、本校オリジナルの「家庭学習ノート」です。私たち教師が子どもたちに基礎・基本（漢字の読み書き、計算、日記などの作文力等）の定着を図るために古くから活用してきたアナログ学習の最たるものです。この家庭学習ノートのよさとデジタルドリルなどの新しい学習を組み合わせた家庭学習のスタイルを作り上げようと考えています。

図5は、アナログ学習とデジタル学習の配分を示したものです。低学年期は、アナログ指導を重点的に、中学年期から高学年期は少しずつデジタル学習の配分を多めにした組合せにしていこうと考えています。「あれかこれかではなく、あれもこれも」ということでアナログ学習のよさを生かしながらデジタルのよさも生かしていくという考え方です。タブレットの端末の持ち帰りについては、4年生以上としています。この線引きは暫定的なものですので変更もあり得ることをお含みおきください。

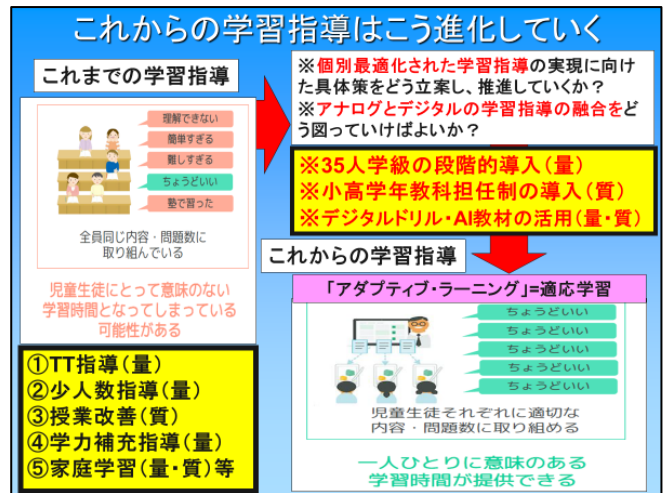
図6は、教員一人一人が、日々の授業、補充指導、家庭学習などの取組の中でタブレット端末を活用した実践をまとめたものです。本校には34名の教員がいます。教員一人一人から様々な教科領域での実践がなされ、集約されると見込んでいます。それらの実践から明らかになったタブレット端末の有効で効果的な活用法が、全教員で共有できて、学校全体に広がっていくと考えています。星峯西小の子どもたち一人一人に「確かな学力」を身に付けるために、指導者としてより最適と考える学習指導を明らかにしていきたいと考えています。

最後に、「不易流行」という言葉があります。松尾芭蕉が示した俳諧の理念です。いつまでも変わらないものの中に新しい変化を取り入れることを指す言葉です。また、新しさを求めて変化すること自体が世の常であるとうことも指しています。学校教育においても同じことがいえるかと思います。これからの新しい情報化社会、デジタル社会に向けて私たちがそのあるべき姿を模索して取り組んでいかなければならないと考えています。

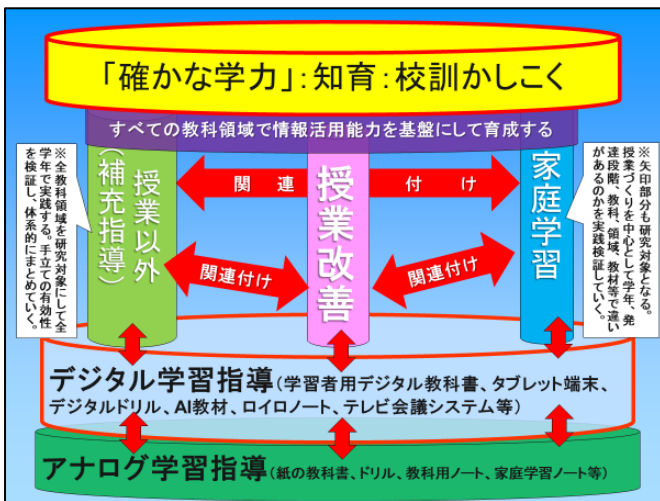
【図1】教育の情報化・EdTechに係るマスコミ報道



【図2】これからの学習指導はこう進化していく



【図3】「確かな学力」を育む全体計画



【図4】本校オリジナルの家庭学習ノートの活用



【図5】アナログとデジタルの学習指導の配分

アナログ学習とデジタル学習の配分の置き方(目安)

アナログとデジタルのバランス(目安)	【低学年】		【中学年】		【高学年】	
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
デジタル学習指導		2	4	6	8	
アナログ学習指導	8		6	4		2
タブレット端末の活用程度・家庭への持ち帰り	学校で慣れ親しみ、使う家庭への持ち帰り不可			学校・家庭で使いこなす家庭への持ち帰り可		

【図6】タブレット端末を活用した授業づくり

